

平成 21 年度全国学力・学習状況調査結果 函館市の概要について

函館市教育委員会

「全国学力・学習状況調査」は、文部科学省により、全国の全ての小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に、第 3 回目が平成 21 年 4 月 21 日に実施されました。

本市における学力状況調査の全体的な傾向は、小学校 6 年生、中学 3 年生ともに、北海道の平均正答率とほぼ同様の結果でした。

本市の学校教育は、「心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ」という目標のもと、児童生徒一人一人の学ぶ喜びをはぐくみ、「基礎・基本の定着」を図る学習指導の充実に取り組んでいます。

「基礎・基本の定着」とは、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、その知識や技能を実生活の様々な場面で活用することができるような力を身に付けさせることと捉え、日々の指導の充実に努めてきているところです。

本調査によって測定できる学力は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部であります。本市では、この結果を、子どもたちの学習状況を把握する資料の一つであると捉えており、調査結果については、他の学校や自治体との競争や比較ではなく、子どもたち一人一人の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えております。

今回、本市の調査結果の概要について公表しますが、さらに調査結果の分析を進め、学習指導等についての改善策を各学校等に示し、一層の指導の充実を図っていきます。

なお、調査結果の分析につきましては、本市としての平均正答率と全国の平均正答率の差が 3 % 以内の場合には「定着」、3.1 % ~ 5 % 以内の場合には「概ね定着」、5.1 % 以上の場合には「改善が必要、課題がある」と整理しました。

調査の内容 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語 A，算数・数学 A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語 B，算数・数学 B〕
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力にかかわる内容など

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none">・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査	<ul style="list-style-type: none">・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況，児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

なお、平成 21 年度全国学力・学習状況調査の調査問題と質問紙調査の内容は、文部科学省のホームページに掲載されています。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

学力状況調査の結果の概要及び結果に基づく学習活動や家庭学習の改善について

【小学校 国語】

<p>国語A (知識)</p>	<p>「国語A知識」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「話すこと・聞くこと」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「書くこと」については、定着が図られています。</p> <p>「読むこと」については、定着が図られています。</p> <p>「言語事項」については、概ね定着が図られています。</p>	<p>国語B (活用)</p>	<p>「国語B活用」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「話すこと・聞くこと」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「書くこと」については、定着が図られています。</p> <p>「読むこと」については、改善が必要です。</p> <p>「言語事項」については、改善が必要です。</p>
<p>課 題</p>	<p>文章の内容に合わせて、小見出しを書くこと、全体を通して、書く必要のある事柄を整理すること、文章全体の組み立ての効果を考えることは、大部分の児童ができているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を書くこと ・ローマ字で表記されたものを正しく読むこと 	<p>課 題</p>	<p>調べる内容を見通して、必要な事柄を整理したり、話し手の立場や意図をとらえて聞いたりすることなどは、大部分の児童ができているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、自分の考えをまとめること ・目的や意図が伝わるように話の組み立てを工夫しながら説明すること



学校における学習活動の改善方策例

- 語彙を増やすために、各教科や日常生活で国語辞典や漢字辞典を利用する。
- ローマ字の規則性に気付くため、コンピュータを使って、語や文、文章を作る。
- 表現の工夫に着目して読む。
- 目的に応じて、速読、読み比べ、多読（同じ課題で多くの本を読む）をする。
- 映像や実物を適切な時間やタイミングで提示して説明する。
- 学年に応じた話の組み立てを工夫して話す。
- 事物や事柄、手順や方法を説明したり、聞き手から助言をもらったりする。

学校の学習を生かした家庭学習の参考例

- 本を読んだら、その内容や感想について話し合ってみましょう。
- 言葉の意味などを家族に教えてもらう前に、国語辞典や漢字辞典で調べてみましょう。
- 学校の出来事について、時間を決めて、家族に話してみましょう。

【小学校 算数】

算数A (知識)	<p>「算数A知識」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「数と計算」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「量と測定」については、改善が必要です。</p> <p>「図形」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「数量関係」については、改善が必要です。</p>	算数B (活用)	<p>「算数B活用」については、定着が図られています。</p> <p>「数と計算」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「量と測定」については、定着が図られています。</p> <p>「図形」については、定着が図られています。</p> <p>「数量関係」については、定着が図られています。</p>
課 題	<p>整数及び小数、分数の四則計算の方法や数の構成、平行四辺形の性質については、大部分の児童が理解できているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数を四捨五入して、概数で表すこと ・ 0は偶数であること ・ 減法と除法の混合した整数の計算をすること ・ 分度器の目盛りを読むこと ・ 三角形の面積を求めること ・ 資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表すこと 	課 題	<p>示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を、図形の性質を基に考えることは、大部分の児童ができているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 棒グラフから必要な数量を読み取り、差を概数で見積もること ・ 示された長方形の板にカードを敷き詰められないと判断する方法を記述すること ・ 調べた結果を振り返り、きまりを見いだして、カードを敷き詰められない例をつくること



学校における学習活動の改善方策例

計算の順序についてのきまりを理解するため、友達に計算方法を説明する。

数直線に印を付けて、整数を類別したり、四捨五入して表された概数を調べたりする。

扇のような具体物を用いて、角の大きさを回転の大きさとして視覚的にとらえる。

図形を作り、共通点を見つけたり、図形の特徴を説明する。

面積の求め方を説明したり、友達が説明した方法を用いて実際に図形の面積を計算する。

資料を分類整理し、表やグラフに表したり、百分率や平均を求めて、特徴や傾向を考える。

自分の考えや解決方法を筋道を立てて説明する。

学校の学習を生かした家庭学習の参考例

生活場面で算数の考え方を使っている事柄について、問題をつくり、解きましょう。

ニュースや新聞に示された表やグラフからわかることを書きましょう。

計算をしたり問題を解いて、間違ったときは、その原因や次に気を付けることを自分の言葉でノートに書きましょう。

【中学校 国語】

<p>国語 A (知識)</p> <p>課 題</p>	<p>「国語 A 知識」については、定着が図られています。</p> <p>「話すこと・聞くこと」については、定着が図られています。</p> <p>「書くこと」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「読むこと」については、定着が図られています。</p> <p>「言語事項」については、定着が図られています。</p> <p>聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問すること、短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことなどは、大部分の生徒ができているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書くこと ・文脈に即して漢字を正しく書くこと 	<p>国語 B (活用)</p> <p>課 題</p>	<p>「国語 B 活用」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「話すこと・聞くこと」については、今回出題がありませんでした。</p> <p>「書くこと」については、改善が必要です。</p> <p>「読むこと」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「言語事項」については、今回出題がありませんでした。</p> <p>書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明すること、文章の展開をとらえ、段落の役割を理解すること、語句に注意し、その効果的な使い方に気付くことなどは、大部分の生徒ができているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること ・文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くこと ・詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くこと
---------------------------------	--	---------------------------------	---



学校における学習活動の改善方策例

文章を書いた後に、ペアやグループで読み合い、推敲したり自分の表現に役立てる。

パンフレットや説明書から、必要な情報を取り出し、簡潔にまとめて見出しを書く。

教科書にある漢字を使って、文や文章を作り、文脈に即して正しいかどうかを辞書を使って確かめ合う。

教科書の教材に使われているイラストや写真、図表と叙述を関連付けて考え、自分の考えについて、根拠を示しながら説明する。

教科書の教材を読む際に、一読後に自分の課題を決めて、その課題解決に必要な情報を書き出して、自分の考えをまとめる。

小学校の国語で扱われている言語活動を導入段階に位置付け、学習経験を生かした学習課題に取り組む。

複数の教材を関連付けたり比較したりしながら読み、自分の考えをまとめる。

学校の学習を生かした家庭学習の参考例

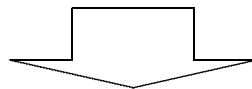
辞書を活用して、複数の漢字の使い方(送りがなや熟語)を調べ、文章を作りましょう。

問題集に出題されている課題(要約する、決められた字数でまとめるなど)を教科書の教材に当てはめて考えてみましょう。

授業で取り上げている教材と関係する資料(本、新聞、パンフレット、HPの情報)を関連付けたり比較したりしながら、自分の考えをまとめてみましょう。

【中学校 数学】

<p>数学A (知識)</p>	<p>「数学A知識」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「数と式」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「図形」については、定着が図られています。</p> <p>「数量関係」については、概ね定着が図られています。</p>	<p>数学B (活用)</p>	<p>「数学B活用」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「数と式」については、概ね定着が図られています。</p> <p>「図形」については、定着が図られています。</p> <p>「数量関係」については、改善が必要です。</p>
<p>課 題</p>	<p>正と負の数の計算，作図と線分の垂直二等分線，二元一次方程式の解を座標とする点の集合が，直線として表されることについては，大部分の生徒が理解できているが，次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指数の計算の仕方を理解すること ・ 具体的な場面で，等式を目的に応じて変形することができる円柱と円錐の体積の関係について理解すること ・ 事象の起こる確率を求めることができること ・ 等式の性質と移項の関係を理解すること 	<p>課 題</p>	<p>事象を図形に着目して観察し，その特徴を的確にとらえることは，大部分の生徒ができているが，次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 方針に基づいて証明したり，振り返って考えること ・ 筋道立てて考え，事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること ・ 事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明すること ・ 事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること ・ 不確定な事象についての予想を実験で確かめるための方法を考えること



学校における学習活動の改善方策例

誤りのある計算例を取り上げて，その誤りを計算のきまりに基づいて指摘し，計算方法を確認する。

文字式や方程式の計算過程を具体的な場面と関連付けて説明する。

予想と結論を関連付けたり，結論から仮定，仮定から結論の両方向から考えたりして，問題解決に取り組む。

問題場面を図に表したり，表に表して変化や対応の様子を調べたりする。

複数の計算方法に取り組み，その中から効率的で簡潔な方法を選択して，その理由を相互に説明し合う。

単元の導入に既習事項の確認を行い，新しい学習内容との関連や違いを考える。

数量の関係を言葉や式，表やグラフなどでとらえ，相互の関係を根拠を示しながら説明する。

学校の学習を生かした家庭学習の参考例

問題集に出題されている問題を間違えた場合，その原因を考え，計算のきまりと比べて，計算方法のポイントをまとめましょう。

理解が難しい内容は，前学年や小学校の算数の内容を学び直しましょう。（問題を解くだけでなく，教科書に示されているような，作図やグラフ化，操作などの活動を実際に行うことが大切です。）

学校や家庭での生活と関連のある問題を考え，学んだことを生かして，解決してみましょう。

学習状況調査の結果の概要

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境、学校の取組状況などについての質問で構成されており、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっています。

本調査において、「している」「どちらかといえばしている」などプラス要因で回答した割合が、全国平均を5%以上上回っている項目及び下回っている項目を、以下に示しています。

【小学校】

函館市が高い傾向を示した項目（全国平均を5%以上上回っている項目）

< 児 童 >

- (2 8) 家で学校の授業の予習をよくしている。
- (2 9) 家で学校の授業の復習をよくしている。
- (3 0) 家で苦手な教科の勉強をよくしている。
- (3 1) 家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後でよく勉強している。

< 学 校 >

- (5 7) 国語の指導として、発展的な学習の指導をよく行っている。
- (6 0) 国語の指導として、様々な文章を読む習慣をつける授業をよく行っている。
- (8 5) 第6学年を対象とした授業参観を、年間4回以上実施している。
- (9 0) 模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行っている。
- (9 6) 指導計画の作成やその達成に向けた方策について、全教職員間で共有し、取組に当たっている。
- (9 8) 校長は、校内の授業をほぼ毎日見て回っている。

函館市の課題と思われる項目（全国平均を5%以上下回っている項目）

< 児 童 >

- (7) 自分には、よいところがあると思っている。
- (1 2) 普段（月～金曜日）、1日あたり4時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている。
- (1 6) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたり30分以下しか、勉強をしていない。
- (1 7) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり2時間以上、勉強をしている。
- (3 6) 今住んでいる地域の行事に参加している。

< 学 校 >

- (2 3) 「朝読書」などの一斉読書を毎日行っている。
- (2 4) 学校図書館を活用した授業を週1回程度行っている。
- (2 5) 放課後を利用した補充的な学習サポートを週に2～3回実施している。
- (3 6) 児童が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書かせる指導をよく行っている。
- (5 0) 算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を、年間の授業のうちおよそ3/4以上行い、習得できるようにしている。
- (5 1) 算数の授業において、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を、年間の授業のうち、およそ3/4以上行っている。
- (5 8) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- (6 9) 地域の人材を外部講師として招聘した授業をよく行っている。
- (7 4) 学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動によく参加してくれる。
- (8 3) 算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導をよく行っている。

【中学校】

函館市が高い傾向を示した項目（全国平均を5%以上上回っている項目）

<生徒>

- (2) 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている。
- (44) 「総合的な学習の時間」の勉強が好きである。
- (52) 国語の勉強が好きである。
- (55) 読書が好きである。

<学校>

- (11) 生徒は、どちらかといえば熱意をもって勉強していると思う。
- (12) 生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っている。
- (13) 生徒は、礼儀正しいと思っている。
- (28) 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をどちらかといえば行っている。
- (35) 生徒に対して、資料を使って発表ができるような指導をどちらかといえば行っている。
- (56) 国語の指導として、補充的な学習の指導をどちらかといえば行っている。
- (58) 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をどちらかといえば行っている。
- (59) 国語の指導として、書く習慣を付ける授業をどちらかといえば行っている。
- (63) 数学の指導として、発展的な学習の指導をどちらかといえば行っている。
- (71) PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる。
- (74) 国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促す働きかけをどちらかといえば行っている。
- (78) 数学の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけをどちらかといえば行っている。
- (86) 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修をよく行っている。
- (87) 模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行っている。
- (93) 指導計画の作成や校内研修の実施、保護者・地域との連携など、学校運営に校長のリーダーシップが発揮できている。

函館市の課題と思われる項目（全国平均を5%以上下回っている項目）

<生徒>

- (12) 普段（月～金曜日）、1日あたり4時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている。
- (13) 普段（月～金曜日）、1日あたり3時間以上、テレビゲームをしている。
- (36) 今住んでいる地域の行事にどちらかといえば参加している。
- (40) 近所の人に会ったときは、あいさつをしている。
- (63) 数学の勉強はどちらかといえば好きである。
- (65) 数学の授業の内容はどちらかといえば分かる。
- (67) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法をどちらかといえば考える。

<学校>

- (24) 学校図書館を活用した授業を計画的に行っている。
- (50) 数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を、年間の授業のうちおよそ3/4以上行い、習得できるようにしている。
- (51) 数学の授業において、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を、年間の授業のうち、およそ3/4以上行っている。
- (72) 学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる。

「教科に関する調査」と「生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査」の結果からとらえた本市の傾向

下の項目に当てはまる児童生徒ほど、「教科に関する調査」において、平均正答率が高いことが明らかになりました。

【小・中学校共通】

- ・ 毎日朝食を食べている。
- ・ 適度の睡眠時間をとっている。(小学校：8～9時間，中学校：7～8時間)
- ・ テレビゲームをする時間が短い。(2時間以内)
- ・ 家庭学習の時間が学年相応である。(小学校：1～2時間，中学校：2時間以上)
- ・ 携帯電話の使い方について、家の人との約束をきちんと守っている。
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強したり、テストで間違えた問題について見直しをしている。
- ・ 新聞やテレビのニュースなどに関心がある。(特に小学校で顕著)
- ・ 学校の決まりを守っている。(特に中学校で顕著)
- ・ 読書が好きである。